Press Release Vol. 2

2025年4月9日

報道関係各位

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント、公募型フォトフェスティバル

「KG+2025」、150以上の展覧会、トークなど全プログラムが決定！

2025年4月25日（金）– 27日（日）、「KYOTOGRAPHIE & KG+ PHOTOBOOK FAIR」を安藤忠雄建築のTIME'Sにて開催
国内外35組の出版社等が写真集の魅力を伝えます

Federico Estol《SHINE HEROS》© Federico Estol

この度、一般社団法人KYOTOGRAPHIEでは、サテライトイベント「KG+2025」を2025年4月12日（土）～5月11日（日）、京都市内約120会場で開催します。（「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」と同時開催）

「KG+」は、KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭のサテライトイベントとして、2013年よりスタートした公募型フォトフェスティバルです。13回目を迎えた本年は、150を超える展覧会が開催され、300人以上のアーティストが参加。大きく3つのカテゴリで展覧会を紹介します。

審査員によって選出されたファイナリスト10組のアーティストのコンペティション型展覧会「KG+SELECT」、協賛企業がサポートする大規模な展覧会「KG+SPECIAL」。そして、数多くの展覧会の中から、オーディエンスがより親しめるよう、KG+が注目する展覧会をそれぞれ「KG+ For Collectors」、「KG+ PICK UP」と位置付け紹介いたします。

専門家による連続レクチャー「KG+ ACADEMY」が新たにスタート
写真の楽しさを体感する1ヶ月の祭典がいよいよ始まります

また、「KG+」は、写真表現を軸としたプラットフォームという側面も持ち、会期中、ワークショップ、アーティストトーク、アカデミー、ツアーなど展覧会以外の市民参加型のプログラムがおよそ40ほど行われます。街中の黄色い旗を目印に、エネルギーに満ちた多様な表現が地域と訪れる人々をつなぎ、新たな発見や交流を創出します。

お問い合わせ

小泉智子 | Tomoko Koizumi
(KG+ / KYOTOGRAPHIE KYOTO PR OFFICE)
tomoko.koizumi@kyotographie.jp
MOBILE 090-2385-4557

須田千尋 | Chihiro Suda
(CHIHIRO SUDA INC)
chihiro@chihirosuda.com

市川靖子 | Yasuko Ichikawa
(iroiro Inc.)
press@iroiroiroiro.jp

OFFICE ADDRESS

〒604-0993
京都市中京区久遠院前町672番地1
Website https://kgplus.kyotographie.jp
@kgplus @KGplusevent @kgplus_kyoto

Press Release
Vol. 2
2025年4月9日

4回目を迎え、国内外からも注目が集まる写真集に特化したフォトブックフェア

「KG+PHOTOBOOK FAIR 2024」会場風景 © Yoshiumi Haruki

2021年に始まった「KG+PHOTOBOOK FAIR」は、国内ではまだ珍しい出版社や書店が集う写真集に特化したブックフェアです。
KYOTOGRAPHIEと初共催となる今回は、青幻舎、ふげん社、POST、BOOK AND SONS、PGI+TinRoofPress、HOPPER & FUCHS、te editions、same dust、FF Seoul、crevasse、LibroArte、赤々舎などの他、韓国や中国、ベルギー、アメリカからも参加が決まり、国内外のユニークな出版社や書店35組の出展者が揃います。各出展者による独創的な本に加え、KG+とKYOTOGRAPHIEの記念書籍やKYOTOGRAPHIE 2025参加アーティストの写真集など、幅広く並びます。写真集の魅力を作り手が読者に直接伝えることで、新たな出会いの場を創出します。
フォトブックフェアの会場となる1984年に建てられた安藤忠雄建築、TIME'S（木屋町三条）では、KYOTOGRAPHIE 2025出展作家 Martin Parr 、吉田多麻希の各展覧会をご覧いただけます。Sigmaが TIME'S2Fスペースを「SIGMA Pop-up Library」として今年も開放。1500冊を超える貴重な写真集を取り揃えたライブラリーなどを楽しむことができます。
「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」と併せてこの機会にぜひ、取材・ご紹介の検討をお願いいたします。

EXHIBITORS: 35組

- ふげん社（東京）
- crevasse（茨城）
- NEUTRAL COLORS（横浜）
- M Readers Club（東京、中国）
- Zen Foto Gallery（東京）
- HeHe（東京）
- AL / KiKi inc.（東京）
- Libro Arte（東京）
- HOPPER&FUCHS（ベルギー）
- 冬青社（東京）
- 青幻舎（京都、東京）
- 株式会社サンエムカラー（京都）
- THREE BOOKS（東京、京都）
- Same Dust（韓国）
- 赤々舎（京都）
- torch press（山梨）
- PGI+Tin Roof Press（東京、アメリカ）
- PHOTOBOOK AS OBJECT / PHOTOBOOK WHO CARES（東京、京都）
- 青艸堂（京都、上海）
- BOOK AND SONS（東京）
- POST（東京）
- 白水（台湾）
- STAIRS PRESS（東京）
- 津津浦浦・万津6区（長崎・佐世保）
- TCP PRESS（横浜）
- FF Seoul（韓国）
- Ephemere（東京）
- THE FOREVER CAT / THREE SPACE（東京）
- 京都蔦屋書店（京都）
- ARP&Tico books（韓国）
- gallery 176（大阪）
- te editions（アメリカ、中国）
- the memory machine（香港）
- PIDAN（東京）
- KYOTOGRAPHIE & KG+（京都）

KYOTOGRAPHIE & KG+ PHOTOBOOK FAIR 2025　概要

会場：TIME'S 3F
京都市中京区中島町92
会期：2025年4月25日（金）–27日（日）
時間：11:00–18:00（*初日のみ12:00–19:00）
料金：入場無料
主催：KYOTOGRAPHIE、KG+
協賛：ハニカム株式会社、株式会社写真化学、キヤノン株式会社、株式会社日邦、月桂冠株式会社

Press Release
Vol. 2
2025年4月9日

記念書籍『KG+SELECT 10 YEARS, 10 ARTISTS』予約注文受付中!

会場での発売に先駆けて、オンラインストアで先行予約を開始しました。先行予約では特別価格にてご案内中です。

予約注文受付中（4月11日まで）
オンラインで予約注文された場合は、会期中（4月12日ー5月11日）にインフォメーション町家、もしくはTIME'S ショップでスタッフに氏名を伝え、お受け取りください。

価格：¥4,500+tax
予約注文特別価格：¥4,000+tax

書籍について

『KG+SELECT 10 YEARS, 10 ARTISTS』は、KG+アワード開設10年の軌跡を振り返り、10年間のアワード受賞者10名のその後の活動や近作を一冊にまとめた写真集を（株）シグマと共同制作し刊行します。
KG+のアワード部門は「KG+ Award」として2015年にスタートし、2019年より「KG+SELECT Award」へと改称されました。スペシャリストで構成される審査委員会によって1名のアワード受賞者が選出されます。アワード受賞者は、KYOTOGRAPHIEからの助成を受け、翌年のKYOTOGRAPHIEのメインプログラムのひとつとして展覧会を開催できるステップアップ型のアワードです。
過去10年にわたり選ばれたアワード受賞者は、受賞を機に作品や活動を飛躍させ、その道筋は世界へとつながっていきました。写真集の出版や海外の写真祭での展覧会開催、国内外のメディアで特集されるなど、その活動は広く注目を集めています。
本書では各年のアワード受賞者のアーティスト歴を辿るような作品群を掲載し、さらに受賞当時から現在までの思いを綴っています。ほかにKYOTOGRAPHIE / KG+ 共同代表のルシール・レイボーズと仲西祐介のロングインタビュー、竹内万里子氏（作家・批評家）やパスカル・ボーズ氏（キュレーター）の寄稿も収録。アワードの歴史や目的、写真家との歩みを俯瞰し、過去と歴史をつなぐ標ともなるでしょう。

2015　古賀 絵里子｜ ERIKO KOGA
2016　殷 家樑｜ KALLEN YAN
2017　森田 具海｜ TOMOMI MORITA
2018　顧 剣亨｜ KENRYOU GU
2019　福島 あつし｜ ATSUSHI FUKUSHIMA
2020　梁 莹菲｜ YINGFEI LIANG
2021　吉田 多麻希｜ TAMAKI YOSHIDA
2022　松村 和彦｜ KAZUHIKO MATSUMURA
2023　ジャイシング・ナゲシュワラン
　　JAISINGH NAGESWARAN
2024　劉 星佑｜ HSING-YU LIU

仕様

名前：『KG+SELECT 10 YEARS, 10 ARTISTS』
サイズ：B5
製本：ハードカバー（糸かがり綴じ）
ページ：256P
ブックデザイン：賴 怡學
編集：伊藤礼香、中澤有基、賴 怡學

発行：一般社団法人KYOTOGRAPHIE
共同制作：株式会社 シグマ
発売元：株式会社 青幻舎
印刷・製本：株式会社サンエムカラー
ISBN：978-4-86152-984-9
刊行時期：2025年4月初旬予定

TALK EVENTS: KG+SELECT Award 10th Anniversary BOOK 刊行記念クロストーク

Supported by SIGMA

 # 1　4月19日（土）14:00–15:30　@TIME'S
#1 森田具海（KG+ AWARD 2017 Winner）、顧 剣亨（KG+ AWARD 2018 Winner）、
劉 星佑（KG+SELECT Award 2024 Winner / KYOTOGRAPHIE 2025 アーティスト）他

#2,3　5月3日（日）14:00-15:30 / 16:00-17:30　@TIME'S
#2 古賀絵里子（KG+ AWARD 2015 Winner）、福島あつし（KG+SELECT Award 2019 Winner）
#3 吉田 多麻希（KG+SELECT Award 2021 Winnerr/ KYOTOGRAPHIE 2025 アーティスト）、
松村和彦（KG+SELECT Award 2022 Winner）

KG+SPECIAL S01

SIGMA Pop-up Library

Sigmaが収集している写真集蔵書の一部を会期限定で公開する特設ライブラリー。会場ではKYOTOGRAPHIEゆかりの写真家選書コーナーをはじめ、1500冊以上の名著を閲覧いただけます。Sigmaウォーター（無料）も配布していますので、写真集の鑑賞はもちろん、写真展めぐりの合間の休憩や待ち合わせにも。どなたでも、何度でも、ご自由にお楽しみいただけます。ぜひお立ち寄りください。

会場：TIME'S
京都市中京区中島町92
会期：4月12日（土）–5月11日（日） 11:00–19:00
無休・入場無料
主催：株式会社 シグマ

2024年の会場

KG+SPECIAL S03

Visions from KG+SELECT Award 10 YEARS, 10 ARTISTS SIGMA Mini Lounge

株式会社 シグマとの共同制作により刊行される写真集『KG+SELECT 10 YEARS, 10 ARTISTS』に合わせてアワード受賞者たちのインタビューを行いました。映像によってそれぞれの現在地からの声と作品をお届けします。

会場：堀川御池ギャラリー A
京都市中京区押油小路町238-1
アーティスト：KG+SELECT Award 歴代受賞者10名
会期：4月12日（土）–5月11日（日） 11:00–18:30（最終入場18:00）
月曜休み・入場無料
協賛：株式会社 シグマ

EXHIBITIONS

公募型フォトフェスティバル「KG+2025」ではKG+SELECT、KG+ SPECIALの他、150を超える写真展をKG+ For Collectors、KG+ PICK UPなどカテゴリーに分けて紹介いたします。ギャラリーに限らず、カフェや寺社仏閣、屋外など様々な会場を舞台に展開されます。

KG+SELECT：審査員審査によって選出されたファイナリスト10組のアーティストのコンペティション型展覧会
KG+SPECIAL：協賛企業やパートナー企業が主催・共催で行う展覧会
KG+ For Collectors：作品を収集するコレクター向け展覧会
KG+ PICK UP：KG+が選ぶ今注目の展覧会。

KG+SELECT 2025 Supported by SIGMA

Step to KYOTOGRAPHIE、可能性と飛躍のアワード

「KG+SELECT」は、キャリアや世代を問わず世界中から集まったエントリーの中から、国際的に活躍する審査員により選出された10組のファイナリストによるコンペティション型展覧会です。
展覧会の審査を経て選ばれる1組のアワード受賞者（KG+SELECT Award Winner）は、「KYOTOGRAPHIE 2026」オフィシャルプログラムの1つとして、翌年展覧会を開催します。今年は5ヵ国10名のアーティストがファイナリストに選出されました。各作家のステートメント、略歴は別途資料をご覧ください。

作家資料

KG+SELECT 2025 審査員（順不同）

- アンドレア・ホルツヘル（マグナム・フォト（パリ）グローバル・カルチャー・ディレクター）
- エレナ・ナバロ（「FOTOMÉXICO」創設者兼芸術監督）
- 綾 智佳（The Third Gallery Aya オーナーディレクター）
- ルシール・レイボーズ & 仲西祐介（KYOTOGRAPHIE、KYOTOPHONIE、KG+ 共同創設者・共同ディレクター）

KG+SELECT 2025 公式ブック & POST CARD

KG+SELECT 2025のファイナリスト10名の作品をダイナミックに紹介し、ステートメントやプロフィールとともに収録した、KG+SELECT 2025 公式ブック。
本年は、ファイナリストたちの作品ポストカード（10枚）とともに、スペシャルセットとして販売します。八竹庵（旧川崎家住宅）とTIME'Sほか、一部のKYOTOGRAPHIE展示会場にて購入いただけます。

KG+SELECT 2025 概要

会場：堀川御池ギャラリー
京都市中京区押油小路町238-1
会期：2025年4月12日（土）-5月11日（日）
時間：11:00–18:30（最終入場18:00）月曜休み
料金：入場無料
協賛：株式会社 シグマ

「KYOTOGRAPHIE × KG+ Award Ceremony 2025」

「KG+SELECT Award 2025」の発表、各種アワードの発表

セレモニー会場：京都芸術センター 2階講堂（堀川御池ギャラリーより徒歩15分ほど）
京都市中京区山伏山町546-2
日時：2025年4月13日（日）18:30–20:30（18:00 開場）
参加費：無料

KG＋SELECT 2025 ファイナリスト（順不同）

フェデリコ・エストル｜Federico Estol（ウルグアイ）
《SHINE HEROES》

©Federico Estol

リティ・センングプタ｜Riti Sengupta（インド）
《Things I Can't Say Out Loud》

©Riti Sengupta

西岡 潔｜Kiyoshi Nishioka（日本）
《際｜In the Twilight of Life: Or Shall We Be Reborn?》

©Kiyoshi Nishioka

ヴィノッド・ヴェンカパリ｜Vinod Venkapalli（インド）
《In absentia》

©Vinod Venkapalli

何兆南（サウス・ホー・シウナム）**｜South HO Siu-Nam**（香港）
《Work naming has yet to succeed》

©South HO Siu-Nam

南川恵利｜Eri Minamikawa（日本）
《今日も》

©Eri Minamikawa

ソン・サンヒョン｜SangHyun Song（韓国）
《病院》

©SangHyun Song

牟禮朱美｜Akemi Mure（日本）
《さなぎの中はだれも知らない》

©Akemi Mure

奥田正治｜Masaharu Okuda（日本）
《Dig A Hole》

©Masaharu Okuda

時津 剛｜Takeshi Tokitsu（日本）
《BEHIND THE BLUE》

©Takeshi Tokitsu

KG+SPECIAL

KG+SPECIALは協賛企業やパートナー企業が主催・共催で行う展覧会。活躍しているアーティストがキュレーションや企業サポートを受けることで、より大規模な展覧会を実現します。

KG+SPECIAL S02

GFX Challenge Grant Program 2023 –Make Your Next Great Image–

© Vanessa Vettorello

富士フイルムが主催する「GFX Challenge Grant Program 2023」は、世界各国で活躍するクリエイターの創作活動サポートを目的とした助成金プログラムです。2023年8月から10月の期間、全世界を3つの地域に分け、写真家が助成金を使って成し遂げたいクリエティブなアイデアと制作テーマを撮影企画書にまとめて応募していただきました。選考は2ヶ月かけて行われ、地域別に実施された一次、二次選考、さらに、外部審査員を招きグローバルで実施された最終選考を経て、2024年1月に受賞15テーマを決定しました。「GFX Challenge Grant Program 2023」を通じて制作された受賞者15名の作品を展示いたします。世界各国から集まったオリジナリティあふれる写真・動画作品をお楽しみください。

出展作家

Jodi Windvogel, Juan Carlos Reyes, Markus Naarttijärvi, Shina Peng, Vanessa Vettorello, Alex Velasco, Dike Su, Jatenipat Ketpradit, Jerick “Anyo” Collantes, Junghoon O, Kaylah Sambo, Large Django, Mislav Mesek, Santiago Javier Bazan, Seokjun Yun

会場：くろちく万蔵ビル 3F

京都市中京区百足屋町374-2 くろちく万蔵ビル

会期：4月12日（土）–5月11日（日） 11:00–19:00　木曜休み・入場無料

主催：富士フイルム株式会社

KG+SPECIAL S04

パメラ・トゥリゾ｜Pamela Tulizo Mababu—先祖の霊（こだま） The Art of Color – Dior Photography and Visual Arts Award for Young Talents

パメラ・トゥリゾ（1993年、コンゴ民主共和国ブカブ生まれ）は、ゴマを拠点に活動する写真家。2020年に「ディオール ヤング フォトグラフィー & ビジュアル アーツ アワード」を受賞した。最新プロジェクト「Mababu,先祖の霊（こだま）」は共同制作によるもので、アフリカ大陸の奴隷制の歴史にまつわる様々な場面を新たな解釈で再現している。丹念に作り込まれた十数点の写真作品では、綿花農園やタバコ畑、家事労働、性的搾取など、奴隷制が支えた経済活動の現場に女性たちを配置することで、大西洋奴隷貿易を語るうえで見落とされてきた女性たちの存在を浮かび上がらせているのである。このプロジェクトを通して、トゥリゾは歴史の陰に隠れた女性たちに敬意を表し、その勇気や不屈の精神、たくましさを讃えている。

会場：Sfera

京都市東山区弁財天町17 スフェラ・ビル

会期：4月12日（土）–5月11日（日） 12:00–19:00　水曜休み・入場無料

主催：パルファン・クリスチャン・ディオール

KG+SPECIAL S05

小原一真｜Kazuma Obara
わかちもつ言葉と風景

小原一真は、福島第一原発作業員のポートレート撮影をはじめ、戦争やパンデミックといった大規模な災禍の中で社会から見えづらくなった個人の記録を続けています。2021年のKYOTOGRAPHIEでは、コロナ病棟での看取りをテーマにした「Fill in the Blanks｜空白を埋める」を京都・二条城で展示、2022年からはハンセン病療養所の取材を開始しました。ハンセン病患者を強制隔離する政策は1907年に始まり、患者を終生隔離出来る法律は1996年まで続きました。患者やその家族は、ハンセン病が恐ろしい伝染病であるという誤った情報によって、甚大な迫害と差別を受け続け、病気が完治した今もなお、その影響は強く残り続けています。本展では、小原が聞き取りと撮影を続けてきた沖縄と関西のハンセン病回復者・家族への聞き取りの言葉、そして、彼らが歩んできた軌跡を写真で表現します。言葉は、社会が彼らが奪わってきたものと、その中で彼らが築き上げてきたものを提示し、写真は、私たちが普段見ている景色の背後にある見えない風景を暗示します。

協賛：株式会社京都新聞印刷
会場協力：小川珈琲、ポルタ、URBAN RESEARCH KYOTO、しんらん交流館

S5-1 しんらん交流館
しんらん交流館では、「悼む」をテーマに写真とテキスト、映像を用いたインスタレーションが行われます。「社会」から不可視化された隔離の先で亡くなっていく人々を社会の中にいる「わたし」が悼むこと、そして、その行為について考えます。

会場：しんらん交流館
京都市下京区上柳町199番地
会期：4月12日（土）–5月11日（日）
平日 9:00–18:00、土日祝 9:00–17:00
火曜、5月3日–5月5日休み・入場無料

S5-2 ポルタ
京都地下街ポルタでは、「道程」をテーマに展示が行われます。日本には北は青森、南は沖縄まで13の国立ハンセン病療養所があります。小原は回復者への聞き取りをもとに、当事者たちがこれまでに移動したいくつかの道程を列車やカヤックで辿りながら、そこから見える風景写真を撮影しています。それは、かつて回復者たちが療養所に向かった道程であり、また、一時帰省、社会復帰、そして、現在では、再入所される方々が見ている風景かもしれません。展示される青森から沖縄の風景、当事者の言葉は、普段、何気なく見ている景色の背後にある、異なる風景を立ち上がらせます。

会場：ポルタ
京都市下京区東塩小路町901番地
会期：4月12日（土）–5月11日（日） 11:00–18:00
無休・入場無料

S5-3 小川珈琲
小川珈琲2Fギャラリーでは、「編む」をテーマに展示が行われます。ハンセン病回復者の人々が療養所の中で積み重ねてきたもの、日々の暮らしの積み重ねの中で獲得してきた言葉、習慣の中で大切にされてきたものを当事者の作品や居室の写真、詩などが空間に配置されていきます。

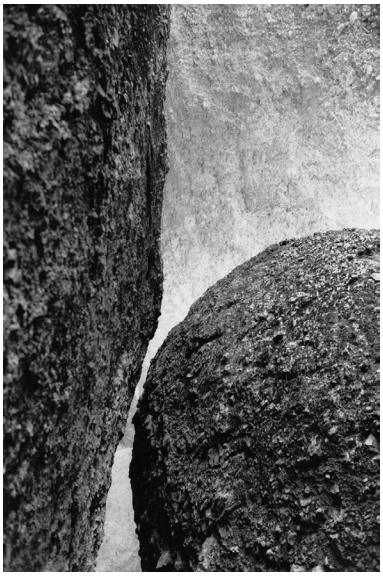
会場：小川珈琲 堺町錦店 2階
京都市中京区菊屋町519-1
会期：4月12日（土）–5月11日（日） 7:00–20:00 (L.O. 19:30)
無休・入場無料

S5-4 URBAN RESEARCH KYOTO
URBAN RESEARCH KYOTOでは「間柄（あいだがら）」をテーマにインスタレーションが行われます。他者や環境との関係性、コミュニケーションの中で形成されていく自己、その中で掴み取る自らの「自分らしさ」について「間柄」をキーワードに探求します。展示では、あるハンセン病回復者家族の男性が幼少期に自ら編んだ家族アルバムと彼が青年期に撮った写真のネガをスキャンした作品を用いて、他者との関係性の中で一人の人間として掴み取り、築き上げてきたその「生」を表現します。

会場：URBAN RESEARCH KYOTO
京都市中京区円福寺前町285
会期：4月29日（火・祝）–5月11日（日） 11:00–20:00
不定休・入場無料

KG+SPECIAL S06

渋谷ゆり｜Yuri Shibuya
Idyllic Moment



東京都生まれの写真家・渋谷ゆりは、武蔵野美術大学在学中からスケートボードをテーマに写真を撮り始めました。世界各国への旅を経て移り住んだニューヨークでは、スケーターたちとの協働によって多くの作品を残しています。およそ10年間、被写体と誠実に向き合いながら、コミュニティの一員にならなければ撮ることのできない写真があることを学んでいきます。そして、観光で訪れたヨセミテ国立公園で、偶然にもスケーターと同じように自由を謳歌するクライマーたちと出会い、感銘を受けます。彼らが長期滞在するキャンプサイトを主な舞台とする写真集『Camp4,Yosemite』を発表したのが2014年のこと。カリフォルニア州バークレーに居を移し、毎年数ヶ月間ヨセミテ国立公園に通う生活を続けたおよそ10年の間に、渋谷の視線は少しずつ変化していきます。ヨセミテの象徴的な風景を訪問者として撮るのではなく、ニューヨークでの実践と同じように、コミュニティの内側からしか見えないものを記録していきます。長く岩に取り付き続けた者だけが持つ、純粋な眼差し。友人となった彼らの、まるで風景と一体化するようなクライミングスタイル。自身もクライミングを始めたことによって見えてきた花崗岩の表情。渋谷の写真に宿る親密さは、長い時間をかけて溶け込むようにして、ようやく湧き出てくるもの。渋谷は、今展覧会のタイトルを「Idyllic Moment」と付けました。直訳すれば、「長閑な瞬間」でしょうか。本来は相反する意味を持つ言葉の並びは、「親密さ」、「ピース」、「永続性」と言った、彼女の写真から受ける印象を見事に捕捉しています。同時に、のんびりと穏やかに過ぎる時間が、実は稀有な、刹那的なものであることを示しています。渋谷はこのタイトルに「すべてを忘れて、今、ここにいる感覚を込めた」と言います。その言葉は、かつて存在した瞬間を懐古する、という写真の本質的な役割を想起させます。同時代を写しながらも不思議と引き出されるノスタルジーにも似た感慨は、美しいモノクロームの階調でなければ表現し得ないものなのです。

会場：ザ・ノースフェイス・スタンダード 京都
京都市中京区坂井町450
会期：4月12日（土）–5月11日（日）　12:00–19:00（土日は11:00–）4月16日休み・入場無料
主催：株式会社ゴールドウイン

KG+SPECIAL S07

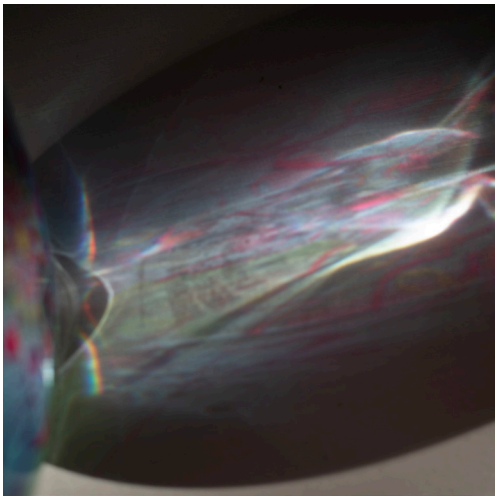
コスティア・ホルナン・ドバン
Kostia Hornain Debain
遡る

『流れに逆らって』ルーツへの帰還の物語。
生後1歳で養子になった私は、ウクライナを母国・出身地としています。帰りたいという気持ちは常にありますが、現在の状況ではそれがほとんど不可能になっています。自分のルーツに立ち返るという問いに対して、どのように視覚的な答えを見出すことができるのでしょうか？このプロジェクトは私の個人的な物語をもとに、写真というイメージの現実と虚構、そしてその持つ力を問いかけるものです。写真は、これらの問いに対する答えを与え、空白を埋めてくれます。ウクライナへのこの旅は、制約への一つの解決策として現れたものであり、このプロジェクトは、始まったばかりの探求なのです。
コスティア・ホルナン・ドバン（Kostia Hornain Debain）は、2024年にペニンゲン（Penninghen）でアートディレクションを優等で卒業。フランス人写真家アニエス・プロペック（Agnès Propeck）の指導を受ける。

会場：新風館 SPOT
京都市中京区場之町586-2
会期：4月11日（金）–4月18日（金）　11:00–19:00　無休・入場無料
主催：ペニンゲン

KG+SPECIAL S08

伊藤妹｜Mai Ito
Intangible〜カタチノナイモノ

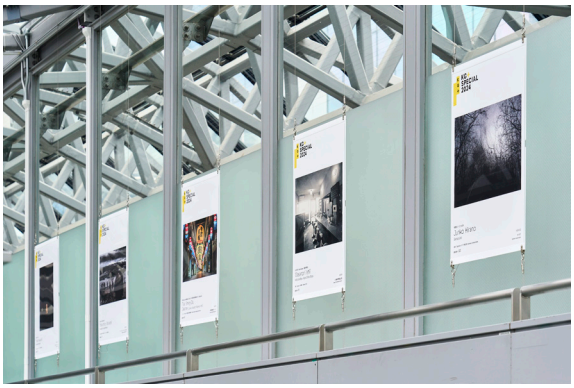


現代社会は視覚的評価に支配され、物理的な存在が優先されがちである。しかし、香りや記憶、感情といった無形のものには、目に見えないながらも深い力が宿っているのではないだろうか。香りは目を閉じても感じられる美であり、過去の瞬間や感情を鮮やかに蘇らせる力を持つ。恋人との思い出や家族の香り、旅の記憶など、香りを通じて鮮明に感じ取ることができるのは、個々の記憶の中に深く根付いた体験である。写真は一瞬を切り取る力を持つが、この作品ではその瞬間に潜む目に見えない感覚的な存在に迫る。作家伊藤妹は香水を媒介に、自らの記憶や感情と重ね合わせながら、無形のものの存在に触れ、無形の美が持つ癒しや記憶の力、視覚を超えた感覚的存在を可視化する実験的な試みを行っている。香りの持つ深い力と、その無形の美が映し出す感覚的な世界を探求する展覧会である。

会場：京都駅ビル7階 東広場北ピロティ
京都市下京区東塩小路町 京都駅ビル7階
会期：4月12日（土）–5月11日（日）　10:00–20:00　無休・入場無料
共催：京都駅ビル開発株式会社、KG+

KG+SPECIAL S09

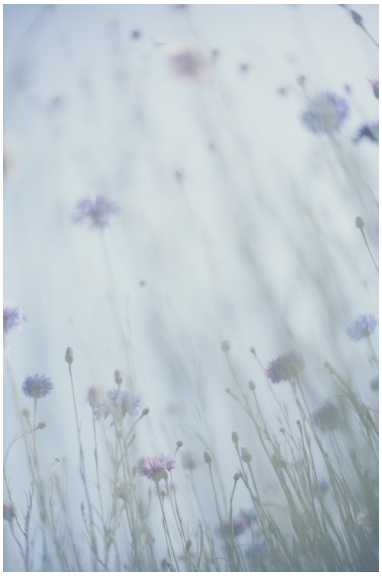
KYOTOGRAPHIE & KG+
Digest Poster Exhibition



会場：京都駅ビル空中径路（10階）
京都市下京区東塩小路町 京都駅ビル10階
会期：4月12日（土）–5月11日（日）
10:00-17:00　無休・入場無料
協賛：京都駅ビル開発株式会社

KG+SPECIAL S10

瀧本幹也｜Mikiya Takimoto
LUMIÈRE / PRIÈRE



2020 年初頭、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によって、人々は他者との接触を極端に減らし、自宅などの限られた空間に閉じこもることを余儀なくされました。写真とともに生きてきた瀧本幹也も、多くの関係者が関わる仕事が軒並みストップしてしまったことはもちろん、それまでの作品づくりのように世界各地に飛び、大がかりな撮影もできなくなりました。
そんなとき、偶然目にした野に咲く菜の花。季節が巡るたび繰り返し芽吹く小さな植物の命や記憶は、一体どのように繋がってきたのだろうか。その内部に息づく「小宇宙」を探求すべく、小型カメラひとつで野の草花を見つめたシリーズが「LUMIÈRE」（フランス語で「光」）となりました。
一方、2020 年秋。京都で国際写真祭に参加した瀧本は「円融」（仏語。すべての事物が完全に溶け合い、互いに妨げないこと）という言葉に出会います。人気がなくなり、静寂の中にたたずむ古都の寺社を訪れたとき、過去から現在、そして未来へと脈々と続いてゆく時の流れに自らも連なっていることを感じます。その連なりをとらえるべく、寺院を歩いて巡りながら撮影したシリーズが「PRIÈRE」（フランス語で「祈り」）に結実しました。
惑星や宇宙、生命に魅了され、表現してきた写真家が、写真を撮る歓びを再認識して生み出した2つの新作。コロナ禍を経て、新たな展開を迎えた瀧本幹也の作品世界をぜひご覧ください。

会場：カリモクコモンズ京都　京都市中京区大阪材木町685−2
会期：4月8日（火）–5月10日（土）　12:00–17:00　日曜、5月3日−5月6日休み　入場無料

会場：タッセルホテル三条白川　京都市東山区大井手町103-3
会期：4月8日（火）−5月10日（土）　12:00–17:00　無休・入場無料

会場：SO / OBJECTS　京都市左京区浄土寺下南田町37東角
会期：4月8日（火）−5月10日（土）　12:00–17:00　月・火・水・木曜休み（祝日を除く）　入場無料

主催：瀧本幹也写真事務所
協賛：カリモク家具、タッセルホテル三条白川
協力：SO / OBJECTS
コーディネート：Q

KG+SPECIAL S11

ichimai kyoto
print journey ー印刷を旅するー

京都の現代アート×150余年の印刷技術が彩る、アートプリントブランド「ichimai kyoto」。2024年8月のローンチ以降、Funny Dress-up Lab、Yuna Yagi、松岡柚歩、山崎愛彦とコラボ作品を発表し、2025年5月には5人目のアーティストとのコラボを予定している。コラージュやペイント、立体作品等のアプローチを見事に印刷に昇華させ、その完成度は業界内外でも高く評価されている。その高いクオリティのベースを支えているのは、写真技術と結びつきが深い、“製版技術（印刷する前の版を作るまで工程）” 今回の展示では作品やプリントを見ることはもちろん、ichimaiのモノづくりのプロセス等も体験できる、ボリュームのある内容となっている。

会場：itonowa KYOTO　京都市下京区突抜2-357
会期：4月25日（金）–5月11日（日）　10:00–17:00　無休・入場無料

会場：ビームス 京都　京都市中京区桜之町415 京都松竹座ビル 1階
会期：4月12日（土）–5月11日（日）　11:00–20:00　無休・入場無料

主催：写真化学

KG+ FOR COLLECTORS

作品を収集するコレクター向け展覧会です。

参加作家

- 川内倫子
- 三田村光土里
- 篠原雅武
- 尾仲浩二
- 宮下五郎
- 山崎雄策
- ショウヤ・グリック
- 澄毅
- 吉田亮人
- エジャム・ディラン・コセ
- 松島星太

など

KG+ DISCOVERY Award 2025 Supported by Fujifilm

KG+の全てのプログラム（KG+SELECTを除く）を対象としたアワード。
展覧会審査とプレゼンテーション審査を経て、KG+DISCOVERY Award 2025 受賞者が選ばれます。

会場：QUESTION 4F Community Step
京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町390-2
プレゼンテーション＆アワード発表日時：2025年4月18日（金） 10:00–
審査方法：関係者向け公開プレゼンテーション ※観覧希望者は要申し込み
協賛：富士フイルム株式会社

アワード受賞者には以下が授与されます。
- DELTA｜KYOTOGRAPHIE Permanent Spaceでの個展開催の権利とフォローアップ
- 副賞：富士フイルム株式会社のデジタルカメラGFXシリーズの最新モデル「FUJIFILM GFX100RF」

Nominee

06
吉田亮人
The Dialogue of Two

会場：Su

09
松島星太
Till someone whispers

会場：TORINOKI FURNITURE

19
SHIFT80（坂田ミギー、政近遼、堅田真衣、池谷常平、下村恵太）
私たちの暮らしにようこそ。さあ、対話しましょう。

会場：京都大学吉田寮ビリヤード室

24
木下大輔・櫻井朋成
恵みの循環

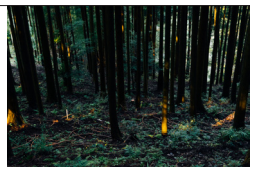
会場：便利堂コロタイプギャラリーII

26
千賀健史、林田真季
After all

会場：RPS京都分室パプロル

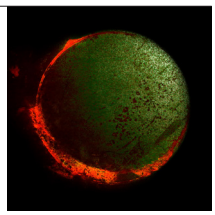
28
林田真季
Silent Echoes of the Cedar

会場：hakari contemporary



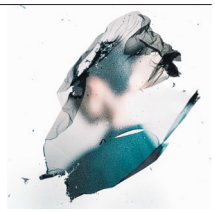
31
顔鵬峻、菅実花
Peng-Chun YEN,
Mika KAN
Unreal-Real 輪廻重生

会場：Kurasu HQ



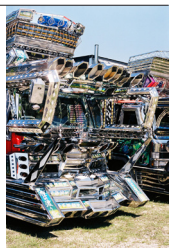
50
近藤央希、上田佳奈、かなまる。
ゴースト・イメージ

会場：ギャラリーヘプタゴン



72
ルイーズ・ミュトレル
Louise Mutrel
Eternal Friendship Club

会場：agnès b. CAFÉ 祇園



110
佐藤真優
白昼の街

会場：kumagusuku SAS

EVENTS

KG＋MEETING POINT

作家を囲みながら、作品と食を楽しむ小さな会。展覧会とは異なる作品体験を提供します。

KG＋ ACADEMY

専門家による「写真＋ PLUS」をテーマにしたレクチャー。学び、見て、考える、を巡ることができるフェスティバルならではの学びの場場を創出します。

会場：TIME'S　京都市中京区中島町92
開催日時：4月19日（土）–2025年5月6日（火・祝）　12:00–16:30
通しチケット　一般：¥20,000 / 学生：¥12,000
※通しチケット　一部講座の期間限定見逃し配信付き
3回チケット　一般：¥6,500 / 学生：¥4,200
単発チケット　一般：¥2,500 / 学生：¥1,500
詳細はウェブサイトへ

講師の例
小原一真（写真家）、タカザワケンジ（写真評論家）、中澤有基（KG＋プログラムディレクター）、
堀井ヒロツグ（写真家）・成田舞（写真家）、小林美香（写真研究者）、北桂樹（現代写真研究者）、きりとりめでる（美術評論家）
ほか

KG＋ Public Program

会期中は、KG＋主催のイベントをはじめ、参加アーティストなどが主催する写真表現を軸としたワークショップ、アーティストトーク、ツアーなど24の市民参加型プログラム「Public Program」（PP）が開催されます。各イベントの詳細・ご予約方法は、KG＋ WEBサイトにてご確認ください。

ワークショップの例
- 写真評論「明るい部屋」（ロラン・バルト）を読むワークショップ
- モノクロプリント体験ワークショップ、サイアノタイプワークショップ
- コロタイプ印刷体験ワークショップ
- 石に写真を転写するワークショップ
- エリオグラビュール、フォトグラビュール、プラチナプリント、などの特殊技法にまつわるトーク　など

Press Release
Vol. 2
2025年4月9日

「KG+2025」開催概要

会期：2025年4月12日（土）–5月11日（日）　＊一部有料会場あり、会場によって会期は異なる
会場：京都市内各所
主催：一般社団法人KYOTOGRAPHIE
共催：京都市、京都市教育委員会
後援：京都府

「KG+SELECT 2025」

会期：2025年4月12日（土）–5月11日（日）11:00–18:30（最終入場18:00）月曜休み
会場：堀川御池ギャラリー　入場無料
　　京都市中京区押油小路町238-1
協賛：株式会社 シグマ

「KYOTOGRAPHIE × KG+ Award Ceremony 2025」

日時：2025年4月13日（日）18:30–20:30（18:00 開場）
セレモニー会場：京都芸術センター 2階講堂（堀川御池ギャラリーより徒歩15分ほど）
　　京都市中京区山伏山町546-2
参加費：無料

「KG+ DISCOVERY Award 2025」

プレゼンテーション＆アワード発表日時：2025年4月18日（金）　10:00–
会場：QUESTION 4F Community Step
　　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町390-2
審査方法：関係者向け公開プレゼンテーション ※観覧希望者は要申し込み
協賛：富士フイルム株式会社

「KYOTOGRAPHIE & KG+ PHOTOBOOK FAIR 2025」

会期：2025年4月25日（金）–27日（日）　11:00–18:00（*初日のみ12:00–19:00）
会場：TIME'S 3F
　　京都市中京区中島町92
料金：入場無料
主催：KYOTOGRAPHIE、KG+
協賛：ハニカム株式会社、株式会社写真化学、キヤノン株式会社、株式会社日邦、月桂冠株式会社

Sponsors & Partners

Main Sponsors

SIGMA　FUJIFILM

Sponsors

DIOR　京都新聞印刷　THE NORTH FACE　penninghen　京都駅ビル

Partners

karimoku　SUN COLOR　SHASHIN KAGAKU　OGAWA　然花抄院　BEAMS CULTuART

Special Partnership

α-Station FM KYOTO 89.4

Media Partners

京都新聞　写真　fisheye

Organizer
一般社団法人 KYOTOGRAPHIE
KYOTOGRAPHIE Organization Committee

Co-organizers
京都市
Kyoto City
京都市教育委員会
Kyoto Municipal Board of Education

Support
京都府
Kyoto Prefecture